

- ・平成23年10月14日（金）
 - 13:00 見学会（名古屋城、トヨタ産業技術記念館）
 - 17:00 地区情勢懇談会 名古屋国際ホテル2F
 - 18:30 交流パーティ //
- ・参加者数
 - 【内訳】
 - ①青年会メンバー：38社・41名（東北1、東京16、東海21、大阪2、神姫1）
 - ②来賓（高木理事長、酒匂・林・木村（秀）各副理事長）ほか9名、
総勢50名。（昨年は42名）

4. 調査研究事業

(1) 技術等に関する調査研究

- ①『建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン』（H21年12月、日本鋼構造協会発行）の普及促進活動
 - 1) 同ガイドラインのフォローアップ委員会への参画
 - ・建築業界内へのガイドライン普及に向けたフォローアップ委員会活動に、臼井東京支部技術委員長（株富士鉄鋼センター取締役）が組合代表委員として参画。
第3回：23年5月23日、第4回：6月22日、第5回：7月12日
 - ・委員会にて、「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン運用に関する技術資料」を作成中であり、平成23年中には発行予定。
 - 2) 建築鉄骨構造技術支援協会主催のシンポジウムに参画（23年6月18日）
 - ・建築鉄骨構造技術支援協会が主催（後援：鉄骨建設業協会、全国鉄構工業協会、日本建築構造技術者協会、日本鋼構造協会、日本建築士会連合会）するシンポジウム「建築構造用鋼材の品質証明方式について」に、臼井東京支部技術委員長が参画し、組合のガイドラインへの対応スタンス、取り組み状況、業界への要望等についてプレゼンテーションを行った。
 - 3) 北海道支部との情報及び意見交換会（23年8月2日）
 - ・本支部懇話会に合わせ、同ガイドラインの概要、普及状況等を報告し、意見交換を行った。
- ②教育用テキスト『鉄鋼の初歩知識とシェアリング業のあらまし』の改訂
 - ・技術委員会（委員長：永吉(株)シーヤリング工場社長）は、東京支部技術委員会の協力を得て、改訂方針を検討し、それらを踏まえて、2月にテキストの改訂に着手。6月末に原稿執筆及び編集など一連の改訂作業が終了し、発刊した。
- ③(社)日本溶接協会・溶断小委員会に参加
 - ・当組合を代表して、東京支部技術委員会の3委員（臼井委員長、溜委員/JFE鋼材(株)取締役、中山委員/神鋼鋼板加工(株)取締役）が参加し、溶断関連の研

究情報交換を行っている。

- ・同協会より、23年10月24日付け書状（理事長宛）にて、溶接小委員会の入会案内が寄せられた。

(2) 「鋼板流通調査」の実施と精度向上への取り組み

- ・統計委員会は、月次統計「鋼板流通調査」の精度向上を図るため、調査対象数を現行の約60社から80社へ拡大し、毎月継続的に協力依頼を行っている。
- ・また、集計システムの見直しを行うとともに、公表フォーマットを改訂し、4月以降、機関誌及びホームページを通じて、データ提供している。

5. 情報・資料の収集、提供事業

(1) 市場委員会の開催

- ・平成23年6月10日（金）名古屋、9月9日（金）東京、12月9日（金）（大阪予定）、平成24年3月上旬（名古屋予定）

(2) 組合機関誌「情報」の発行

- ・4月号～9月号発行、組合員および賛助会員に配布。
- ・判型をB5からA4に変更。

(3) 第20次実態調査の実施

- ・隔年実施。
- ・回答数：171社中、99社（北海道3、東北4、東京36、新潟4、東海17、大阪13、神姫5、中国4、九州13）
- ・報告書「厚板シェアリング業界の現状」は、11月中に作成し、配付の予定。

6. 経済産業省鉄鋼課ヒアリングへの対応

- ・6月16日（木）、9月15日（木）、12月15日（木） 経済産業省会議室

7. 鉄鋼産業懇談会厚板部会長との懇談

- ・6月15日（水）、9月14日（水）、12月13日（火） JFEスチール会議室

8. 東日本大震災関連情報の連絡・提供

- ・経済産業省、鉄連等から発信された、現地被災状況や電力需給・節電問題等に関する情報を適宜組合員へ連絡、周知した。
- ・東北及び浦安所在の当組合員の被災状況を聴取・とりまとめて、組合員に連絡。

以 上